〈〈海を越える広報〉〉

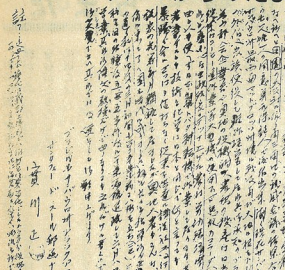
六月のはじめに、広報やちまた編集課あてに一通の外国郵便が届きました。それは、ブラジルからのもので実川正という差出人の署名と印鑑が押されていました。

そして中には、四枚の写真とうすい一枚のぴんせんに細かい字でぎっしりと次のような内容のことが書かれてありました。

これによると、実川正さんという方は、昭和七年（当時数え年十四才）まで、八街町の三区幸町に住んでおり、その後両親とともにブラジルに渡り、数々の苦労を経て今日に至りました。

そして、昨年の九月、日本海上自衛隊の練習艦隊がサントス港に入港した際、佐倉市出身の隊員のかたから、広報やちまたのことを知り、郷土八街の現況を知るために、広報やちまたをぜひ送ってほしい、また、ブラジルからも現地の状況を広報やちまたを通してお知らせしたいとのことです。次にこの手紙のあらましを掲載します。

ブラジルからのたより



八街町は、私にとっては なつかしい故郷で実住校は思い出深い学びの庭です。

私は、昭和七年、当時数え年十四才のときに父母につれられてブラジルへやってきました。私たち一家は、はじめは、コーヒー園に入耕しました。当時は腰にピストルをさげた黒人坊の看視つきで、日の出から日の入りまで働かされました。

このような過酷な労働も、二年の契約期間を終えて、当時好況のオーロプランコ（白い黄金）の波に乗り、借地して、綿作に転向、幾分の資本を得、土地を購入することができ、ようやく自作になることができました。

そして、しばらくするうちに大東亜戦争が始まり、日独伊一世は、資産凍結、旅行も自由にできず、十年間実際無援の境にあつての空白時代でした。父も私も獄舎にぶちこまれたりして、まったくひどいものでした。

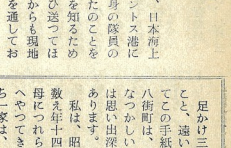
私が広報やちまたを知ったのは、昨年の八月三十一日、日本海上自衛隊練習習艦隊がサントス港に入港したとき、サンパウロ市イビラプエーラ日本館所在公園で在伯各県人会により、隊員の大歓迎会がひらかれたときです。私は、八街出身者を尋ねたのですが、みつかんず、隣町の佐倉出身のかた四名と、なつかしい郷土の話花を咲かせました。そのとき八街では広報を発行しているからこちらから送給すれば、広報を送ってくれるのではないかと話されましたぜひ広報を送ってくださるようお願いします。こちらからも、ブラジルの巻談苛談実情等をお知らせしたいと思います。

私は現在サンパウロ市から六百八十キロのサンパウロ州最西南、マツトグロツソ州境に、戦後からコーヒー園と牧畜などを経営しています。

しかし、ブラジル悪性インフレのため、物価がどんどん上り、お金の値打ちがさつぱりなくなり、奥地大農と曲り角に来ている状態で、困つた時代になりました。それではまたおたよりを申し上げます。

ブラジル国サンパウロ州アラクアラ線
サンタフエードスール郵頭十六番　実　川　正

足かけ三十四年も昔のこと、遠い記憶をたどつてこの手紙を書きます。



定町例議会

六月定例町議会は、二十一日に行なわれ、条例の一部改正など九つの議案と八件の瀬扇や陳情の審査が行なわれました。この議会のくわしいもようが、こんど発行される議会報に掲載されます。

臨時町議会

七月十九日午後二時ごろからひらかれた臨時町議会では、農業委員の推せん、町営住宅の工事請負契約の締結、総合開発調査特別委員会の設置などについて審議が行なわれました。また議員発議により新国際空港の三里塚地区開議決定に伴い、昨年十二月十三日の本町議会決議が白紙に還つたこと、教育、農業、商工業の発展を推進することなどの決議書を議決しました。

広報八街

（七月一日付）

○水道事務所工務係長　川崎只雄（工務係）
○管理課へ　飯塚武夫（税務課）
企画財政課へ　生形千枝子（建設課）　税務課へ　小出富子（収入役室）　秋葉喜一郎（住民課）
住民課へ　石屋文枝（税務課）
七原清子（産業課）　産業課へ　長沢芳枝（住民課）　建設課へ　鈴木節子（企画財政課）　収入役室へ　篠崎利子（税務課）
○新採用　水道事務所　室岡雅一郎　保育園　川島初枝

米国での農業実習を終えて

東吉田　飛田　洋

百聞一見にしかず。実際の米国は、書物や人に聞いた知識しかなくそれもとぼしいものだったが、昨年の三月、町と県のすいせんにより、農業実習生として実際にこの目で見る機会を得ることができた。農民やサラリーマン、中小企業経営者、学生の日常生活、行動、休暇の過しかた、そしてアメリカンデモクラシーをじゅうぶん見てくるつもりで日本を出発した。ところが、一年程で米国のすべてを見たり理解したりすることは、着いたとたんに無理な夢だと気がついてがつかりした。

ハワイ、サンフランシスコ、それから大陸横断バスで二日間の旅の末、アイオワ州着。何百キロも続く砂漠、大きな牧畜の群、岩だらけの山、インデアンの古跡等々、見るものすべて言語に絶するばかりである。

トーマス氏宅に着き、農業実習のかたわら隣州の肉牛やいずれも米国一のイリノイ州、養鶏のミネソタ州、乳牛のウイスコンシン州その他、機会を得ればいつ、テントを持ち車を借りて、湖のほとり公園の木陰でキャンプしながら、日中はアイオワ州や隣州の農家を見て歩き、夜は若者たちのグループや家族づれと、米国と日本の相違について話しあった。

農民は生産者というより企業経営者という自覚を持ち、生活、行動、考え方と、日本農民とのあらゆる点で相違があり、給与所得者、経営者、学生等、これらは、彼らの歴史や人間性からきたものと思われる。

日本に、大都会や農村にもいわゆる西洋式の種々のものが見られるが、米国で日本式のもの、たとえば、鐘つき堂、茶室、日本間、そして日本人を見受けるが、そのちぐはぐさが強く感じられる。

アイオワ州で知り合つた米国の友人が日本に来たが、彼もそれを最初に感じたと言う。

外国を知るは、知識としてよりそれをそのまま取り入れるのは、歴史や人間性から無理ではないかと思う。彼らの生活態度には、たしかにりつぱなものがある。しかしそれらをそのまま受け入れずに、日本の良きものと無理のないようにアレンジして、日本人と言う大オーケストラによつて演奏されるならば名曲が生まれると信ずる。

紙面に制限があるので、具体的なことが書けなかつたが、機会を持つことができれば、農業についても報告したいと思います。

〈吉倉のラジオ体操〉

六月からはじめられたラジオ体操は、各地区で行なわれていますが、吉倉銀座組合でも、毎月第一第三日曜日に、二十数名が参加してラジオ体操を行なつています。

このたび、日本電信電話公社では、当地の電話を自動式にするために、八街電報電話局を設置することとなり、局舎の建築に着手いたしました。

この新局舎が完成すると、電話は全国主要都市と直通になります。

また、いままで取り付けることのできなかつた電話も大幅に取り付けることができるようになります。

なお、川上郵便局の電話は、八街電報電話局に合併されます。

八街電報電話局の完成は、昭和四十二年夏の予定です。工事の完成まではなにかとご迷惑をおかけすることと存じますが、いろいろとみなさまのご協力をお願い申し上げます。

工事中の道路にご注意

電報電話局の工事にともない、電話線のケーブルを埋める工事が役場前通りと、本町通りで九月七日まで行なわれます。このたびの道路わきに、穴をほつてありますので、自動車で通るときなど注意してください。

ごあいさつ

佐倉電報電話局長
久保田千代吉

チューブ30本を寄贈

東吉田の杉本好司さんは、海水浴につかつてください、と、チューブ三十本を中央中学校に贈りました。

保険金二十万円を町に寄付

四区の大西重雄さんは、このほど、町に、児童施設の建設に役立ててほしいと二十万円を寄付しました。

これは、去る五月に自動車事故のため、なくなられたお子さん（五才）が愛飲していた栄養保健飲料Pにかけられていた保険金の一部で、大西さんは、「今後、二度とこういう事故のないようにと、子どもたちが安心して遊ぶことができる施設をつくつてください」と語つています。

町としては大西さんの厚意を謝すると共に保育施設や身体障害者の保護施設等にあてることにしました。

編集者から

町民の皆様と共に歩みを続けてまいりました「広報やちまた」は本号で百号を迎えることができました。

私達編集担当者は、本紙が皆様の目となり、耳となり、声となるよう更に努力いたしますので、今後におきましても、一層の御支援をお願い申し上げます。